

南丹市総合振興計画「基本構想」を策定

森・里・街がきらめくふるさと南丹市



▲原生林

を策定しました。

「基本構想」とは

「南丹市総合振興計画」は、旧四町による合併協議の中で策定された「新市建設計画」を踏まえながら、南丹市を今後「このようなまちにしよう」という将来像を掲げ、市が行うこと、市民が行うこと、市民と行政とが力を合わせて進めていくことなどの方向性を示すまちづくり計画で、基本構想、基本計画、および実施計画により構成されます。

このうち、十年後（平成二十九年）の南丹市を展望し、まちの将来像とこれを達成するための基本方針を示し、まちづくりの指針となる「基本構想」について、地方自治法の規定に基づき、議会の議決

策定にあたっては、昨年十一月二十九日に佐々木市長から南丹市総合振興計画審議会（会長 松村賢治京都伝統工芸大学校長）に計画策定の諮問がなされ、以後同審議会では、市民三千人を対象と

した「まちづくりアンケート」や、市内各種団体からの「聞き取り調査」の結果などをもとに熱心な議論が重ねられ、五回の全体会を経て基本構想がまとめ上げられました。

まちづくりのテーマ

みんなの笑顔 元気を合わせ
誇るときぎすなで未来を創る

平成十八年一月一日、園部町、八木町、日吉町、美山町の合併により「南丹市」が誕生しました。

これまで、それぞれの町では固有の地域特性と誇りを持ち、個性あるまちづくりを進めてきました。今後は地域や世代を超え、まぶしい笑顔、

やる気いっぱい元気な合わせ、誇るときぎすなを大切に、いつまでも生きがいを持って安心して定住できる南丹市をみんなで創る、という想いをまちづくりのテーマとしました。

また、十年後の南丹市の姿を「森・里・街がきらめくふ



▲八木中学校体育祭

るさと南丹市」とし、私たちの誇りであり、長い時間の中で創られてきた暮らしの舞台である、ここにしかない「森」「里」「街」に磨きをかけ、これから大きく変わろうとする時代にきらめく、いつまでも住み続けたいふるさとを目指します。